

「松川浦の浦口」

福島県相馬市

松川浦は、南北7km、最大幅は1.5kmほどで、面積約738ha。浦内には、中洲ほか大小の島が点在し西北端に松川浦漁港がある。東側には沿岸海流で堆積した長州磯が大洲海岸に連なる。北側は水荃山という台地が位置し、鵜ノ尾岬が東端に突き出ている。

長州の南に古湊(ふるみなと)という地名があり、中世(1000年頃)にはここが川口だったと見られている。それが砂の堆積で次第に北上、遂に鵜ノ尾岬の下に達し、そこは飛鳥湊と呼ばれた。名の由来は、古今和歌集の「世の中は 何か常なる 飛鳥川 昨日の淵ぞ 今日には瀬になる」という歌だといわれている。

往々にして潮流の変化や暴風などで流れ込んだ砂が川口を塞ぎ、溢れた水は周辺水田を覆ったため、明治43年(1910)新たに開削されたのが現在の川口である。現在の鵜ノ尾岬の姿も、波の激しい侵食を受けた結果であり、明治期には現在より100m近く海に迫り出していたという。また、藩政時代には江戸や松前に向かう船がここで飲料水を補充した。

松川浦を含む一帯を治めたのは相馬氏である。歴代藩主にとって浦は憩いの場であった。幕末に参勤交代が緩和され、江戸にいた藩主の奥方が戻ってきたが、地方での退屈な暮らしを紛らわすのに浦で舟遊びなどをしたという。浦の佳景を愛で、広く世に知らしめたのが五代藩主相馬昌胤。浦周辺から勝浦を12ヶ所選び出して絵を描かせ都に運び、公卿から歌をつけてもらった。いわゆる「松川十二景和歌」である。

また、浦は「御留浦(おとめうら)」と呼ばれ、魚や貝などを勝手に獲ることは許されず、浦での漁は「水土組」と呼ばれる人々にのみ認められ、獲れた魚介類は城に献上された。相馬でカキ貝のことを「ザガキ」と言うのは、浦でとれたカキは殿様に献上され、残った「残ガキ」が転じてザガキになった、という説もある。

【参考資料】 県政広報グループ「グラフうつくしま31号」平成18年1月



松川浦の浦口 (川口)

みどころ



- 松川浦大橋・大洲海岸：松川浦大橋は、相馬の名所であり、スレンダーな美観が特徴で観光のシンボルとなっている。その松川浦大橋を渡りトンネルを抜けると、右に松川浦、左に太平洋と、素晴らしい景観にめぐりあえる。近くには大洲公園もあり、ハイキングコースになっている。
- 潮干狩り・水産物直売センター：松川浦は県内で唯一のアサリの産地で、松川浦の特産品として人気は上々。潮干狩りは、3月下旬～8月末まで。相馬双葉漁業協同組合松川支所 ☎0244-38-8011
また、原釜漁港の水産物直売センターでは、相馬名物のカレイ・ズワイガ二等、朝水揚げされたばかりの新鮮な魚をそのまま店頭にて格安で販売している。☎0244-38-8956
- 松川浦パークゴルフ場：松川浦を一望できる岩子地区にあり、27ホール・3コースの国際公認コース。レンタルクラブとボールを用意しているので、いつでも、誰でも手ぶらでもプレーを楽しむことができる。松川浦スポーツセンター ☎0244-36-4355